

月刊 いちえふ。

2016年
3月号

1 FOR ALL JAPAN 事務局

とびくす

大型休憩所2階に ローソンがオープン!!

3月1日、待望のコンビニがオープンしました。軽食やアイスをはじめ多彩な商品を用意。商品は、今後も充実していきます。皆さまのご来店を心よりお待ちしております!



安全総決起集会を 開催しました

「今年も廃炉事業を着実に前進させていくため、皆さんと一緒に汗を流し、廃炉の事業が災害ゼロで前進できるように安全の検証という形の徹底により安全の基礎を固めていきたい」と小野明所長より挨拶がありました。



(撮影:西澤 丞氏)

1Fを守る仲間たち 05

1Fの仲間や地元の人たちとの出会いが マンガを描く力を与えてくれました

たつた かずと
竜田 一人さん

マンガ『いちえふ 福島第一原子力発電所労働記』
作者

2013年10月にマンガ雑誌『モーニング』で連載が始まった「いちえふ 福島第一原子力発電所労働記」は、ひとりの廃炉作業員の目から見た1Fを描いたマンガとして、大きな注目を集めています。現在、単行本は第3巻まで発売されています。

今回は、その作者である竜田一人さんに、1Fの仕事で感じたことや仲間との交流などについて語っていただきました。

—— 1Fで仕事をするきっかけは何でしたか。

竜田さん: 当時、被災地での仕事を探していました。その中でも1Fを候補から外すことなく探し続けた結果、1Fにたどり着きました。好奇心はありましたが、特に危険だという考えはありませんでした。

2012年に2、3号機の配管工事、2014年には1号機の調査と3号機のガレキ撤去作業を行いました。実際に仕事をやってみて、十分に安全管理がなされていることがわか



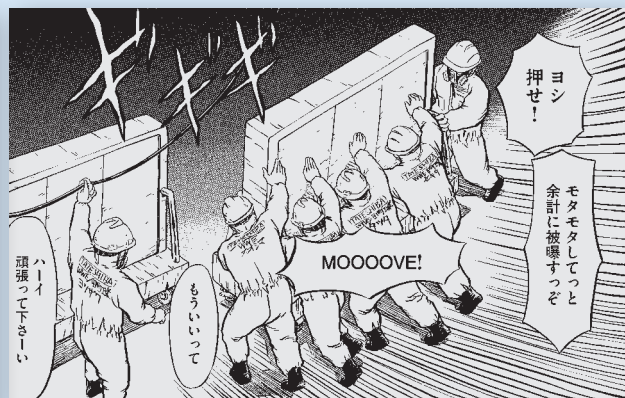
1Fで作業員として働き、『いちえふ 福島第一原子力発電所労働記』を発表。竜田一人はペンネームで、1F近くにある常磐線の竜田駅にちなんでいます

りましたし、なによりもやりがいを感じたので続けようと思ったのです。

仕事の仲間や地元の人たちとの 素晴らしい出会いがあった

—— 竜田さんの目からみて、1Fはどんな場所でしたか?

竜田さん: 私自身も、現場に入るまでは内心もっと特別な場所だと思っていました。ピリピリと張りつめていて、ご



(左)『いちえふ』第1巻より。(上)『いちえふ』第3巻より ©竜田一人

©竜田一人

つい人たちがばかりが働いているところだと想像していたのです。でも実際は、それまで働いてきた数々の職場と変わりなく、私が出会った人たちは、拍子抜けするくらい「愛すべき普通のおっさん」ばかりでした。ただ、構内の規模が非常に大きいことには圧倒されましたね。

—— 1Fで苦労したこと、よかったことを教えてください。

竜田さん：一番苦労したのは、2012年の下宿生活でしょうか。一軒家に中年男性が10人も住んでいたのですから、ストレスがたまりました。夏場の全面マスクも大変でしたね。

1Fに来てよかったのは、なによりもいろいろな人に出会えたことです。仕事の仲間も地元の人たちも、優しく思いやりのある人がいっぱいいました。こうした素晴らしい出会いがあったからこそ、「ここが第二のふるさと」だと思えるほどになり、マンガも多くの方にお楽しみいただけたのかと思います。

—— 仕事場の雰囲気はどうでしたか。

竜田さん：最初の想像とは違って、どこも笑いが絶えない明るい雰囲気の仕事場ばかりでした。福島県内の人たちだけでなく、なかには九州から来たという人もいましたし、

元社長もいれば元公務員もいて、それぞれ事情があるのですが、みんなここでは力を合わせて目の前の作業を楽しんでやっていました。

私が初めて1Fに入ったのは事故から1年以上たってからなので、当初よりかなり状況が落ち着いていたと思います。今も、1Fに行くたびに、労働環境がよくなっていることが実感できます。事故直後

に、危険な作業に当たってくれた方々がいたからこそです。「おかげさまで、今は安全に仕事ができるようになりました」とお礼を言いたいと思います。

寝不足や疲れ、スピードの出しすぎによる交通事故には気をつけてほしい

—— 1Fの仲間へのメッセージをお願いします。

竜田さん：私を含めて、そんな偉そうなことを口に出すのはヤボだという人がほとんどでしょうが、福島での廃炉事業は、大げさにいえば人類の財産になると私は思っています。世界が注目している作業に従事していますし、心の隅には誇りを持っていいんじゃないのかな、とも思います。

うらやましいのは、今20代の作業員ですね。あと30年、40年続くといわれる廃炉事業を最後まで現場で見届けられる可能性があるのですから。すごくラッキーだと思います。

最後にもう一つ、構内での運転には注意が必要です。私自身の経験から、寝不足や疲れでぼんやりしていたり、一般道と同じつもりでスピードを出して、ヒヤリとしたことがありますから。みなさん、交通事故にはくれぐれも気をつけてください。

(聞き手：日経BPコンサルティング)



マンガの紹介

いちえふ 福島第一原子力発電所労働記

竜田さん自身が1Fで作業員として働き、その時の様子を描いた『いちえふ 福島第一原子力発電所労働記』。MANGA OPENの大賞受賞作として『モーニング』に掲載後、国内外のメディアから多くの反響を呼びました。左は最新刊の第3巻の表紙です。

イギリス・ロンドンにある大英博物館の日本ギャラリー Modern Japanに展示された『いちえふ 福島第一原子力発電所労働記』(2015年11月30日時点)



いちえふのいま

大きな功績をあげた作業チームに感謝状が贈られます

1Fで働く作業員の皆さまの奮闘にお応えするために、今年の4月に開かれる福島第一廃炉国際フォーラムでは、すぐれた功績をあげた作業チームに対して、高木陽介経済産業副大臣より感謝状が贈られることが決まりました。くわしくは1 FOR ALL JAPANウェブサイトのお知らせをご覧ください。

また、1Fをさらに安心して働ける場にするために、線量率モニターを大幅に増やしました。原子炉については燃料取り出しの準備が着々と進んでいます。1号機で建屋カバーの鉄骨の取り除き、3号機では燃料取り出しのための訓練が始まりました。

線量率モニターの追加

場所ごとの線量率がリアルタイムで分かるよう、66台増やし86台に。数値は免震重要棟および入退域管理棟内の大型ディスプレイでも確認可能。



陸側遮水壁の海側の工事が完了

配管への冷却材の充填を含め、工事は完了し、陸側遮水壁の凍結準備が整う。

雑固体廃棄物焼却設備の「ホット試験」開始

2月から実際の廃棄物を使った焼却試験（ホット試験）が開始。年度内に運用を開始予定。

1号機について

1月8日、水まき装置設置のじやまになる鉄骨を取り除く作業を開始。

3号機について

● クレーンの点検・修理

600tクローラークレーン2号機の点検・修理を実施。

● 燃料取り出しの訓練開始

燃料取り出しに備えて、模擬燃料プールを使って遠隔操作の訓練実施。



お知らせ

各界から作業員の皆さまへ 応援メッセージが届いて おりますので、ご紹介します。



コピーライター、エッセイスト
「ほぼ日刊イトイ新聞」主宰
糸井 重里さん

廃炉に向けた作業は「希望」という名の
壮大なプロジェクトです

くわしい内容については、「1 FOR ALL JAPAN」ウェブサイトの
応援メッセージをご覧ください。



登山家
田部井 淳子さん

作業員の方々の作業の積み重ねが
明るい未来につながると信じています



クリエイティブディレクター
菅内 道彦さん

いまこの時も作業を続ける
「ヒーロー」のことを
片時も忘れない

● 応援メッセージ URL <http://1f-all.jp/message/>





〈1F桜開花予想〉

毎号、ちょっと息抜きができるお楽しみを掲載していきます。今号は1F桜開花予想です。1Fでは、震災以前、地域の皆さまにも楽しんでいただけるよう、桜並木の整備をしていました。5年前の震災以降、廃炉事業のために断腸の思いで桜を徐々に切ってまいりましたが、企業棟まわりの桜は残すことができましたので、震災以前に行っていた「桜の開花予想」を再開いたします！

桜の基準木



入退域管理施設に一番近い桜(桜並木の一番入退域管理施設側の桜)

以下の5つの週のうち、写真の「基準木」の開花がいつになるか予想してみてくださいませんか。

① 3/19(土)～3/25(金)

② 3/26(土)～4/1(金)

③ 4/2(土)～4/8(金)

④ 4/9(土)～4/15(金)

⑤ 4/16(土)～4/22(金)

震災以前の桜並木



開花した状態



開花の基準:3輪以上が左の写真のように咲いたら開花とします

応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で5名さまにプレゼントをさしあげます。
(3月18日以前に開花した場合は、応募者全員から抽選となります)

「ヴィレッジ受付に設置してある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 3月10日～3月18日まで

※応募用紙は応募箱横に設置しています。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

今号のプレゼント

「1Fを守る仲間たち」に登場いただいた竜田さんのサイン入り『いちえふ 福島第一原子力発電所労働記』の第1巻です。



ウェブサイトのご紹介

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えたいという思いで2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く作業員のみなさまを応援していきます。



<http://1f-all.jp/>

月刊いちえふ。
2016年3月号

【発行日】2016年3月10日

【発行】

1 FOR ALL JAPAN 事務局
(東京電力SC室)

【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp